

医政メモ Q&A

菅政権下の新成長戦略

Q：民主党が2010年6月閣議決定した新成長戦略とは

A：経産省が行ってきた「成長戦略検討会議」でまとめられた案を基に、2009年12月新成長戦略の基本方針が閣議決定された。その後、細部が肉付けされ6月、全体としての「新成長戦略」が正式に閣議決定された。札医通信の516号、オピニオンにも松本政策委員が、日本の社会保障との関連で触れています。

Q：新成長戦略の理念と概略は

A：1990年まで続いた公共事業中心の成長政策から、小泉・竹中政権の市場原理主義による生産性重視の偏った強者富国成長路線が、2000年代の自民党政権下で行われた。新成長戦略は、第3の道を進むとしています。

しかし、小泉・竹中政権の小さな政府路線は継続し、財務省が提唱している持続可能な財政・社会保障、強い経済を目論んでいます。

その概略は

- i グリーン・イノベーション（環境問題を進展させることによる経済成長）
- ii ライフイノベーション（医学・健康産業関連・介護関連産業による成長）
- iii アジア経済戦略（アジアに位置する日本の特徴を生かして経済成長を計る）
- iv 観光立国、地域活性化戦略（訪日外国人2500万人にする目標）
- v 科学・技術・情報通信立国
- vi 雇用・人材戦略（内需拡大）
- vii 金融戦略（金融の世界市場化）

以上、7つの大きな戦略を掲げています。それぞれ委員会が立ち上がり、実現化に向けて検討に入ってます。

Q：医療に関連したライフイノベーションの詳細は

A：新成長戦略を実現するために、21世紀に向けての21の戦略プロジェクトを掲げている。その中で、一つ目は、医療の項目は、医療の実現化促進のための医療機関の選定制度等、二つ目は、国際医療交流（外国人患者の受け入れ）です。

一つ目の件に関して良質な医療を提供するため、医療機関の役割分担、連携、専門職種役割分担の見直し、これには特定看護師制度の導入が絡んでいます。ドラッグラグ・デバイスラグの解消、これは積極的に推し進めてほしい施策です。もちろん、公的保険に早期に組み込まれる保障があることが、前提となります。医療介護で、マーケットを作り雇用需要を生み出し、成長産業にするとの目標を掲げてますが、日医での、成長産業に成りえないとのプレス発表、また、中医協の委員長の〔経済成長の牽引役には成りえない〕との発言もあるように、ある程度の雇用は生まれるが、成長の牽引役は無理だと思います。

二つ目の外国人患者の受け入れですが、これは医療機関の選定にも関わって、受け入れ可能な医療機関の認証制度を設定する意向です。医療ツーリズムに関しては、政策委員会で三谷委員を中心にトピックにしましたが、人件費の安いタイ、インドでは可能でしょうが、コメディカルも含めて、人件費が高い日本では無理だろうし、中国の上海にも、大規模なツアー客を対象とした病院建設が進められているようで、日本に医療を目的としたツアー客を引っ張るのは困難という事になります。混合診療に成っている歯医者さん、一部の民間大手病院、特区を申請している大学病院などで、実質的な医療ツーリズムは行わ

れていますが、医療崩壊の瀬戸際、医者が足りないと、医学部増員を進めている政府が、先頭に立ってこの施策を推し進めるのは、理に合わない札幌市医師会は考えています。
(政策部長 宮崎 誠一)